

令和4年度

「単位老人クラブ実態調査」報告書

公益財団法人秋田県老人クラブ連合会

はじめに

令和4年度、秋田県老人クラブ連合会創立60周年記念事業として実施しました単位老人クラブ実態調査は、各単位老人クラブの会長はじめ市町村老人クラブ連合会のご協力により、8割からご回答をいただきました。

ご協力いただきました皆様に心から感謝申し上げます。

さて、単位老人クラブを対象とした調査は、昭和59年度（1984年）に実施して以来、38年ぶり2回目となります。

現在、県内老人クラブ会員数は、平成7年度（1995年）の12万8千人余をピークに減少し続け、4万5千人余となっております。また、令和2年から世界で蔓延した新型コロナウイルス感染症は、これまでの私たちの生活を一変させ、老人クラブ活動や運営にも大きな影響を及ぼすこととなり、現在も続いております。

そのような状況下での今回の調査は、現在の単位老人クラブの実態を知る上で、大変貴重な資料となりました。

市町村老連や単位老人クラブのリーダーの皆様には、この報告書を手がかりに、それぞれのクラブを診断し、良い所はさらに伸ばし、そうでない所は、改善に努めるなど、大いに活用していただきたいと思っております。

最後に、調査を実施するにあたり設置し、様々なアドバイス等、ご協力をいただきました調査委員会の大田秀隆委員長（秋田大学高齢者医療先端研究センター長）はじめ委員の皆様にも心から感謝を申し上げますとともに、各単位老人クラブの今後益々の発展を祈念し、はじめのことばといたします。

令和5年3月

公益財団法人秋田県老人クラブ連合会

会長 児 玉 長 榮

目次

はじめに

実態調査の方法と回収の状況	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法と回収の状況	1
「単位老人クラブ実態調査」の結果とその傾向	2
I. クラブについて	2
1. 現在の会員数	2
2. 会則の有無	2
3. 会費	3
4. 年会費以外の収入	3
5. 決算額	4
6. 会長について	4
7. 役員について	4
II. クラブ活動について	5
1. 例会について	5
2. 活動計画の作成	6
3. 会報の発行	6
4. 行っているクラブ活動	7
III. クラブの運営について	11
1. 補助金等の申請や報告の書類作成者	11
2. 工夫、困っていること	11
3. 会長の後継者	12
4. 最後に	12
まとめと考察	13
付 秋田県老連創立60周年記念事業 「単位老人クラブ実態調査票」	18

実態調査の方法と回収の状況

1. 調査の目的

会員数やクラブの解散に歯止めがかからない状況の中、令和2年から新型コロナウイルス感染症が拡大し、クラブ活動が制限されるなど、老人クラブにも大きな影響が生じた。

この調査は、単位老人クラブの組織、財政、活動など、現在老人クラブがどのような状況に置かれているのか、その実態を把握し、調査結果を今後の老人クラブの活性化に結びつけることを目的とする。

2. 調査の方法と回収の状況

(1) 質問紙法による。

(2) 調査票は、一括して市町村老人クラブ連合会へ送付。

回収については、

①市町村老人クラブ連合会が取りまとめて県老人クラブ連合会へ送付する。

②返信用封筒にて、単位老人クラブから直接県老人クラブ連合会へ送付する。(10連合会)

上記①②の選択制とした。

(3) 調査票は、令和4年6月17日付文書にて市町村老人クラブ連合会へ発送し、提出期限は7月末日とした。

(4) 調査対象クラブ数 1, 157クラブ (事前調査)

(5) 回収クラブ数 928クラブ

(6) 回収率 80.2%

「単位老人クラブ実態調査」の結果とその傾向

I. クラブについて

1. 現在の会員数（無回答を除く）

区分	男(割合)	女(割合)	全体割合
65歳未満	1.4%	1.3%	2.6%
65～69歳	4.6%	4.0%	8.6%
70～74歳	10.1%	10.2%	20.3%
75～79歳	10.2%	13.5%	23.8%
80歳以上	16.5%	28.2%	44.7%
合計	42.9%	57.1%	100%

まず、男女の会員の比率は、おおむね男4割、女6割となっている。

次に、年齢区分を男女別で見ると、男女とも高齢になるに従い、割合が高くなっている。特に女性はその傾向が顕著に表れており、80歳未満の割合と80歳以上の割合が、ほぼ同じになっている。

また、全体割合では、60代が11%、70代が44%、80歳以上が約45%となっている。

● 1クラブ当たりの会員数

区分	全体割合
30人未満	50.2%
30～50人未満	37.2%
50～100人未満	11.0%
100人以上	1.6%
平均	33.0人

全体の半数のクラブは、30人未満。次いで、30～50人未満が37%となり、全体の平均会員数は、33人となっている。

2. 会則の有無

項目	クラブ数	割合
ある	667	71.9%
ない	244	26.3%
分からない	6	0.6%
無回答	11	1.2%

会則がないクラブが26%。分からない、無回答を加えると3割近いクラブが、会則のない状態でクラブを運営していることになっている。

3. 会費（年額、臨時の徴収や旅行の積立金は含めない）

会 費	クラブ数	割合
1. 0 ～ 499円	65	7.0%
2. 500 ～ 999円	100	10.8%
3. 1,000 ～ 1,499円	498	53.7%
4. 1,500 ～ 1,999円	118	12.7%
5. 2,000 ～ 2,999円	121	13.0%
6. 3,000円 ～	20	2.2%
7. 無回答	6	0.6%

年会費の金額は、1,000円～1,500円未満が53.7%と最も高く、次いで1,500円～2000円未満と2000円から3000円未満が、ほぼ同じ割合になっている。

4. 年会費以外の収入

項目	クラブ数	割合
あ る	868	93.6%
な い	55	5.9%
無回答	5	0.5%

○あると回答した年会費以外の収入（複数回答）

項 目	クラブ数	割合
1. 市町村からの補助金	745	86.1%
2. 地域の町内会（自治会）からの助成金、支援金	572	66.1%
3. 販売収入や廃品回収の収益などの事業収入	65	7.5%
4. その他（以下）	153	17.7%
研修会、旅行等の事業収入、寄付金（香典返し、芳志）、清掃等の謝礼		

年会費以外に収入のあるクラブは、約94%である。その内訳で最も高いのは、市町村からの補助金が86%である。次に高いのは、町内会等からの助成金の66%となっているが、一方で事業収入のあるクラブは、7.5%にとどまっている。

5. 決算額（繰越金は含まない。無回答を除く）

金額	クラブ数	割合
～10万未満	451	50.6%
10～20万	333	37.3%
20～30万	74	8.3%
30～40万	23	2.6%
40万以上	11	1.2%
平均額	118,876円	
最低額	0円	
最高額	917,848円	

決算額については、令和3年度を基に記入いただいたところであり、新型コロナの影響を受け、事業の中止、縮小があり、通常の事業ができない中での決算額と推測される。全体の傾向としては、10万未満が半数を占め、20万未満で9割近くとなっている。また、平均額は約12万、最高額とは大きな差が生じている。

6. 会長について（無回答を除く）

(1) 性別

性別	割合
男	89.0%
女	11.0%

(2) 年齢

区分	割合
65歳未満	0.2%
65～69歳	2.4%
70～74歳	20.8%
75～79歳	28.0%
80歳代	46.9%
90歳以上	1.7%
平均年齢	79.1歳

(3) 経験年数

区分	割合
2年未満	13.8%
4年未満	24.9%
6年未満	18.3%
8年未満	12.5%
10年未満	8.9%
10年以上	21.5%
平均年数	6.0年

クラブ会長の男女割合は、男性が9割、女性が1割となった。

会長の年齢は、平均が79歳となったが、年齢区分では、80歳代が46.9%、90歳以上を加えると、約半数が80歳以上となる。

また、75歳以上の後期期高齢者は、全体の76.6%となった。

会長の経験年数では、平均が6年である。4年未満の割合が一番高く、25%を占めているが、一方で10年以上の年数も20%を超えている。

7. 役員について（無回答を除く）

区分	男	女
副会長	61.0%	39.0%
会計	63.8%	36.2%
その他	44.5%	55.5%

役員男女割合については、副会長、会計とも、ほぼ男6対女4となった。また、それ以外の役員については、女性が男性を上回っている。

II. クラブ活動について

1. 例会について

(1) 年回数（無回答を除く）

回数	クラブ数	割合	回数	クラブ数	割合
0回	1	0.1%	8回	22	2.6%
1回	96	11.1%	9回	14	1.6%
2回	107	12.5%	10回	42	4.9%
3回	112	13.0%	11回	11	1.3%
4回	117	13.6%	12回	82	9.6%
5回	83	9.7%	13回以上	55	6.5%
6回	91	10.6%	平均	6.4回	
7回	25	2.9%	最多	123回	

例会は、クラブにとって大切にしなければならない活動と言えるが、今回の調査では、年4回以下のクラブが、全体の半数（50.3%）を占め、月1回（年12回）以上開催しているクラブは、16%にとどまっている。

平均は年6.4回、最多は年123回であった。

新型コロナの影響があり、例会の回数は減少していると思われる。

(2) 例会出席人数（1回あたりの平均、無回答を除く）

人数	割合
0～9名	20.4%
10～19名	57.8%
20～29名	17.8%
30～39名	3.3%
40～49名	0.1%
50名以上	0.6%
平均14.2名	

例会の1回あたりの出席人数は、10名から19名が、全体の6割近くを占め、19名以下となると、8割近くになる。また、1クラブあたりの平均会員数が、33.0名となっていることから、そこから例会出席の平均人数（14.2名）で計算すると、例会への出席率は、43.0%となる。

(3) 例会の場所（最も多く使う場所を1つ）

場所	割合
1. 自治会館・集会所	66.2%
2. 公民館・公会堂	22.7%
3. 老人福祉センター	2.7%
4. 老人憩いの家	1.4%
5. 会長宅	0.8%
6. 社寺	0.3%
7. その他（以下）	5.9%

例会の場所は、自治会館・集会所が最も多く、公民館・公会堂を含めると、全体の約9割を占めている。老人福祉センターや老人憩いの家などを含めると93%となり、公共施設を拠点として例会が行われていることが伺える。

スポーツ施設、児童館、学習センター、温泉施設、行政の施設、コミュニティーセンター、町内会館、公園など

2. 活動計画の作成

項目	クラブ数	割合
している	804	86.7%
していない	105	11.3%
無回答	19	2.0%

活動計画を持たないクラブが、11.3%ある。その要因は把握できないが、今後のクラブ運営が危惧される。

3. 会報（クラブだより等）の発行

項目	クラブ数	割合
している	175	18.9%
していない	738	79.5%
無回答	15	1.6%

会報は、会員への情報伝達や地域住民への広報として、重要な役割を担うものと考えるが、発行しているクラブは、2割に満たない。

○発行回数（無回答を除く）

年回数	割合	年回数	割合	年回数	割合
1回	12.3%	6回	13.5%	11回	1.2%
2回	19.3%	7回	3.5%	12回	11.1%
3回	14.0%	8回	2.3%	13回以上	2.3%
4回	9.4%	9回	0%	平均	5.2回
5回	5.3%	10回	5.8%	最多	17回

会報を発行しているクラブの中では、年2回が最も多く19%、最多は年17回、平均では年5回という結果となった。
また、年1回から4回が全体の半数の55%となり、月1回程度発行しているクラブは、13%となった。

4. あなたのクラブではどのような活動を行っていますか

①地域活動

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	清掃・美化運動	827	89.1%
2	一元ポスト募金等募金活動の実施と協力	692	74.5%
3	友愛訪問・声かけ運動	642	69.1%
4	施設等の管理	204	21.9%
5	防火・防災運動	181	19.5%
6	おむつ・雑巾など手づくり品の寄贈	145	15.6%
7	郷土芸能・民芸などの伝承活動	130	14.0%
8	三世代交流などの世代間交流	100	10.7%
9	施設慰問	75	8.0%
10	廃品回収	61	6.5%
11	農作物などの生産活動	43	4.6%
12	金銭や古切手などの寄付	3	0.3%
13	その他〔以下〕	173	18.6%
子供の見守り、交通安全運動、町内行事、花壇・花植え、サロン活動 しめ縄作り、除雪作業、スポーツ交流、他			

○上記の活動で老人クラブ以外の人達と行っている割合

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	防火・防災運動	151	83.4%
2	三世代交流などの世代間交流	75	75.0%
3	農作物などの生産活動	30	69.7%
4	郷土芸能・民芸などの伝承活動	84	64.6%
5	施設等の管理	108	52.9%
6	廃品回収	28	45.9%
7	施設慰問	31	41.3%
8	清掃・美化運動	341	41.2%
9	金銭や古切手などの寄付	1	33.3%
10	友愛訪問・声かけ運動	204	31.7%
11	おむつ・雑巾など手づくり品の寄贈	40	27.5%
12	一元ポスト募金等募金活動の実施と協力	143	20.6%
13	その他	95	54.9%
<p>■老人クラブ以外の人達 自治会・町内会、子供会、婦人会・青年部、地域住民、民生委員 小中学生・園児、親子会、ボランティア団体、社会福祉協議会 包括支援センター、消防団、行政、高齢者施設、他</p> <p>■今後取り組みたい地域活動 世代間交流、施設慰問、サロン活動、町内会・婦人会との合同行事、 郷土芸能・民芸等の伝承、施設の維持管理、独居や高齢者の 引きこもり防止活動、農作物の生産活動、廃品回収、他</p>			

②教養活動

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	社会見学・研修旅行	600	64.6%
2	健康に関する学習	480	51.7%
3	老人クラブに関する学習	269	28.9%
4	高齢者福祉に関する学習	248	26.7%
5	生きがいに関する学習	242	26.0%
6	郷土文化・歴史の学習	110	11.8%
7	政治・経済・社会に関する学習	44	4.7%
8	短歌・俳句等	13	1.4%
9	信仰についての学習	12	1.2%
10	その他〔以下〕	53	5.7%
交通安全教室、折り紙教室、郷土料理体験、特殊詐欺講座、手芸教室、茶道教室、スマホ教室、漬物講習、他			

○上記の活動で老人クラブ以外の人達と行っている割合

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	信仰についての学習	10	83.3%
2	短歌・俳句等	7	53.8%
3	政治・経済・社会に関する学習	20	45.4%
3	郷土文化・歴史の学習	50	45.4%
5	健康に関する学習	197	41.0%
6	高齢者福祉に関する学習	96	38.7%
7	生きがいに関する学習	88	36.3%
8	老人クラブに関する学習	72	26.7%
9	社会見学・研修旅行	129	21.5%
10	その他	20	37.7%
<p>■老人クラブ以外の人達 社会福祉協議会、自治会・町内会、行政、福祉団体、地域住民 小中学校、サークル団体、地域包括支援センター、保健師、 シルバー人材センター、子供会・青年会、スポーツクラブ、他</p>			
<p>■今後取り組みたい地域活動 詐欺等防止の学習、郷土の文化・歴史の継承、防災活動 一人暮らしの方への声かけ、老人クラブのPR</p>			

③健康活動

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	健康づくりに関する講習	468	50.4%
2	軽スポーツ (種目：グラウンドゴルフ、ユニカール、ボッチャ、スカットボール、ペタンク、スマイルボール、バレーボール、運動会、ゲートボール、パークゴルフ、卓球、他)	430	46.3%
3	ラジオ・リズム体操などの体操	203	21.8%
4	介護に関する講習	186	20.0%
5	高齢者の精神衛生に関する講習	101	10.8%
6	ウォーキング運動	140	15.0%
7	料理に関する講習	134	14.4%
8	口腔衛生・歯科保健に関する講習	76	8.1%
9	その他〔以下〕	50	5.3%
輪投げ、ビンゴゲーム、脳トレ、ダーツ、体力測定、体操、お楽しみ会、軽ゲーム、他			

○上記の活動で老人クラブ以外の人達と行っている割合

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	ラジオ・リズム体操などの体操	102	50.2%
2	口腔衛生・歯科保健に関する講習	37	48.6%
3	介護に関する講習	85	45.6%
4	高齢者の精神衛生に関する講習	45	44.5%
5	健康づくりに関する講習	198	42.3%
6	料理に関する講習	55	41.0%
7	軽スポーツ	157	36.5%
8	ウォーキング運動	51	36.4%
9	その他	14	28.0%
<p>■老人クラブ以外の人達 社会福祉協議会、各サークル団体（協会）、自治会・町内会、行政、介護施設、子供会、地域住民、医療関係者、包括支援センター、婦人会、体育協会、民生委員、他</p>			
<p>■今後取り組みたい健康活動 ラジオ体操、ウォーキング、体操、料理教室、介護・口腔ケアカラオケ、薬の知識、簡単な運動や脳トレ、定期的な血圧測定 冬期間に楽しむ軽スポーツ、子供達との健康活動</p>			

④レクリエーション活動

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	新・忘年会	630	67.8%
2	親睦旅行	542	58.4%
3	会員の長寿者・誕生祝い	160	17.2%
4	舞踊・ダンス	79	8.5%
5	民謡	32	3.4%
6	囲碁・将棋	21	2.2%
7	その他〔以下〕	168	18.1%
お楽しみ運動会、敬老会、芋煮会、花見会、カラオケ大会、食事会 茶話会、麻雀、クリスマス会、ひな祭り、ゲーム大会、他			

○上記の活動で老人クラブ以外の人達と行っている割合

活 動 項 目		クラブ数	割合
1	囲碁・将棋	11	52.3%
2	民謡	16	50.0%
3	舞踊・ダンス	25	31.6%
4	会員の長寿者・誕生祝い	31	19.3%
5	親睦旅行	87	16.0%
6	新・忘年会	92	14.6%
7	その他	60	35.7%
<p>■老人クラブ以外の人達 各種同好会（サークル）、愛好会、自治会・町内会、地域住民、 社会福祉協議会、婦人会、ボランティア団体、小中学校、子供会 青年会、民生委員、行政、他</p> <p>■今後取り組みたいレクリエーション活動 介護施設へのボランティア、カラオケ、町内会合同でのグラウン ドゴルフ大会、他</p>			

⑤加入促進運動の取り組みの有無

項目	クラブ数	割合
している	636	68.6%
していない	211	22.7%
無回答	81	8.7%

加入促進運動は、クラブの運
営、維持、活動のために、重要な
取り組みと考えるが、2割を超え
るクラブが取り組んでいない。

具体的な活動
<ul style="list-style-type: none"> ・会員募集チラシの作成・配布 ・自治会・町内会総会時の活動PRと勧誘 ・町内会報に活動PR、募集記事掲載 ・町内会報と一緒に募集案内同封 ・サロンやスポーツ大会、親睦旅行など、各種行事に誘い交流を図り勧誘 ・家族を勧誘、夫婦で入会、高齢で退会した息子や嫁を勧誘 ・解散をしたクラブ会員を勧誘

Ⅲ. クラブの運営について

1. 補助金等の申請や報告の書類作成者（複数回答、無回答を除く）

作成者	人数	割合
1. 会長	643	70.8%
2. 会計担当者	453	49.9%
3. 事務担当者	166	18.3%
4. 副会長	117	12.9%
5. その他（以下）	23	2.5%
事務に慣れている会員、女性委員、幹事 地区老連、他クラブの会計担当、庶務、監事		

補助金等の申請、報告の作成者は、7割が会長となり、次いで会計担当者が約半数となった。
また、表にはないが、一人で書類を作成しているクラブは、全体の約6割となった。

2. 補助金等の申請や報告の書類を作成するうえで、工夫していることや困っていること。

○工夫していること

- ・市老連事務局と連携しスムーズに申請書等を提出している。
- ・決算時に困らないよう集会時の人数、話題、費用等を細かく控えている。
- ・年間の活動内容をその都度整理しておいている。
- ・申請書や報告書類は全てパソコンに入力し、いつでも作成できるようにしている。
- ・補助金申請は会計担当者、それ以外の報告書は会長と区分けしている。
- ・書類の記入の仕方のサンプルがある。
- ・市の提出書類に係る相談会を開催しているため助かっている。
- ・申請書類を正しく書くために複数人で確認している。
- ・市老連への申請・報告書の定型フォームをダウンロードし、クラブの総会資料にも活用している
- ・毎年書式が決まっているため、パソコンに書式を作成し、必要事項や数字を入力するだけで書類が作成されるようになっている。

○困っていること

- ・補助金の申請書や報告書を作成できる会員が少ない。
- ・パソコンを使える人がいないため、作成に時間がかかる。
- ・80歳以上の高齢者が多く、補助金を使う行事を実行するのが難しい。
- ・コロナ禍になってから申請が厳しくなった。
- ・申請書の形式が変わり、内容が複雑化し書き方に困っている。
- ・補助金の使途が制限されているため使いにくい。
- ・会員減少による補助金減額。
- ・書類の内容が難しく、記入項目も多いため面倒である。
- ・若い会員が書類づくりを覚えようとしてくれない。
- ・補助金交付条件の制約が多すぎる。
- ・申請時期が早すぎる、作成期間が短い。

3. 会長の後継者（無回答を除く）

区分	割合
1. いる	31.2%
2. いない	30.4%
3. 分からない	38.4%

後継者については、「いる」と「いない」が、ほぼ同じ3割程度となり、「分からない」は、4割近くとなった。

4. 最後に

(1) 老人クラブの活動をして良かったこと（抜粋）

- ・会員との親睦が深まった。
- ・知人・友人が増えた。
- ・地域内の人々の意思疎通がスムーズになってきた。
- ・孤立化や閉じこもりの防止に役立っている。
- ・地域の人たちとのつながりができ、連帯感が生まれた。
- ・会員や地域の人たちと情報交換ができる。
- ・奉仕活動等で地域の活性化に役立っている。
- ・日常生活での心配事や悩み事の相談ができ、お互い助け合える。
- ・地域貢献による満足感、充足感がある。
- ・研修会や大会、イベントなどでさまざまな体験ができ、多くの知識を得られる。
- ・同年代、異年代の人と交流ができる。
- ・他クラブとの交流ができる。
- ・行事や事業を通し世代間交流ができる。
- ・会員の情報が入りやすいため、小さな変化にも早めに気づくことができる。
- ・地域の高齢者の集い、楽しみの場ができた。
- ・地区老連や市老連、県老連の行事に参加できる。
- ・定期的に付き合いができる人がいる。
- ・活動が心身の健康維持につながっている。

(2) 現在老人クラブを運営しているうえで、困っていること（抜粋）

- ・会員の高齢化により活動ができない。
- ・会員の退会、減少。
- ・役員のなり手、後継者がいない。
- ・新規入会者（特に若手）がいない。
- ・若手の会員勧誘が難しい。入会を勧めても若い高齢者は「まだ早い」と言って入会してくれない。
- ・老人クラブの活動に興味をもってもらえない。
- ・活動への参加者の減少、固定化。顔を出さない、名前だけの会員がいる。
- ・活動に協力してくれる人がいない。
- ・会長が事務等を一人で背負っていて負担が大きい。
- ・コロナ禍で活動が制限されている。
- ・コロナ禍や、趣味嗜好が多様化しており、時代に合った活動が分からない。
- ・免許返納者が増え、交通手段がないため活動範囲が狭くなる。
- ・活動が停滞、マンネリ化してきている。

まとめと考察

I. クラブについて

(1) 会員の高齢化と会員数の減少

- 今回の調査結果では、男女とも会員の高齢化が進んでいることが顕著となった。このことは、若手会員の加入による新陳代謝をとおして解決されることが理想である。
- そのためには、自治会や町内会との連携を通じて、まずは対象者を見つけ出し、活動を紹介したパンフレットや会報を届けたり、事前に行事や催しへ招待して、クラブの雰囲気や活動内容を理解して働きかけるが必要である。
- また、いきなりの入会が困難な場合は、まずは協力者（準会員、賛助会員）として、会報づくりや行事、事務作業等の手助けを求めるなど、活動に接する機会をつくりながら、徐々に理解を深めてもらうといった工夫も大切である。
- 1クラブ当たりの会員数については、平均33人となり、30人未満のクラブが全体の半数を占めるなど、今後のクラブの維持、活動の継続が懸念される。
- 上記の若手会員の加入促進と同時に、若手以外の高齢者の加入状況も把握しながら、会員一人一人が加入促進に係る取り組みが必要である。

(2) 会則と年会費、決算額

- 会則は、クラブを運営する上で基礎となるものである。今回の調査では、3割近いクラブがないことから、すべてのクラブに会則の設置を求めたい。
- 年会費は、1,000円から1,500円未満が、半数を占めており、これまでと変わらないと思われる。また、年会費以外の収入としては、補助金と町内会等からの助成金が多く占められているが、事業収入が7.5%とわずかである。
- 補助金や助成金、減少する年会費に左右されずに、充実した活動ができるよう、自主財源の確保を見いだすことが求められる。
- 決算額については、新型コロナの影響で十分な活動ができず、それが結果に反映されたと思われるが、最低額と最高額に大きな差が生じている。

(3) 会長、役員

- 会員の約6割が女性であるが、会長の性別については、9割が男性であり、まだまだ女性の登用が進んでいない状況となっている。
- 女性リーダーの養成が必要であり、そのためには市町村老連や県老連の研修会、事業等に積極的な女性の参加を促すことが求められる。
- また、すべての市町村老連には、女性部（女性委員会）が設置されていることから、女性自身自らが学習する場を設け、知識や活動意欲の向上を目指してもらいたい。
- 会長以外の役員については、女性も比較的多く登用されており、今後の活躍に期待したい。
- 会長の年齢は、平均年齢が79歳。80歳以上の会長が約半数を占めている。また、経験年数10年以上が2割を超えていることから、全体としては、会長の年齢が高く、在任期間が長い傾向がみられ、後継リーダーを確保できていない状況が伺われる。
- 後継リーダーを確保するための一つ的手段として、あらかじめ会長代行（筆頭副会長）を置くことも必要である。
- クラブ内で後継者を得られない場合は、自治会や町内会などの地域組織の協力を得ながら、人材を発掘することが大切である。
- また、市町村老連においては、後継リーダーが安心してクラブの運営・活動に取り組めるよう研修・支援体制の充実を図ることが必要である。

II. クラブ活動について

(1) 例会

- 例会の回数は、年4回以下が全体の約半数を占め、平均では6.4回と従来よりも減少していると思われ、新型コロナの影響が大きいと推察する。また、例会への出席率は、43%と高いとは言えない。
- 例会の場所は、集会所や公民館など公共施設を利用しているところが、9割を超えるなど、集まれる場所は十分に確保できている状況が伺える。
- 例会は、会員への情報伝達や会員から意見・要望を聞く機会であり、また会員の心身の健康状態や悩み等を知る上で、非常に重要な活動であると思われる。
- 参加率を高めるためにも、年齢や健康状態にかかわらず、誰でも参加しやすいような内容をみんなで考えるなど、工夫する必要がある。

(2) 活動計画、会報

- 活動計画を作成していないクラブが11%あり、今後の運営、活動が危惧される。
- 会報を発行しているクラブは、2割に満たない結果となった。
また、発行回数は、平均が年5回。年1回から4回が、全体の55%となり、最多は年17回であった。
- 会報は、クラブの活動状況や案内を周知したり、老人クラブ組織内の情報や高齢者に関するさまざまな情報を伝えたり、または地域住民の方々へクラブの存在や活動への理解などを周知したりと、重要な活動の一つである。
- 立派な会報を作る必要はなく、まずは無理なく作れる範囲から始め、徐々に回数を増やしながら、多くのクラブで会報づくりに取り組んでいただきたい。
- そのためには、特定の人だけが係るのではなく、多くの会員が会報づくりに携われる体制づくりが必要である。

(3) クラブ活動

- 地域活動としては、「清掃・美化活動」「一円ポスト募金等の募金活動」「友愛訪問・声かけ運動」の3つの活動が、約7割以上のクラブで実施されており、地域活動の中心となっている。
- 教養活動としては、「社会見学・研修旅行」が、約65%と最も高く、次いで「健康に関する学習」が約52%となっており、3番目に「老人クラブに関する学習」が約29%となっている。
- 健康活動としては、「健康づくりに関する講習」が50%。次に「軽スポーツ」が46%。3番目に「ラジオ・リズム体操」の約22%となっている。
- レクリエーション活動としては、「新・忘年会」が約68%と最も高く、次いで「親睦旅行」の58%、3番目に「会員の長寿者・誕生祝」が17%となっている。
- 同時に、活動別に「老人クラブ以外の人達と行っている」。その割合とどういう人達かの回答結果では、専門的な活動を必要とする活動ほど、老人クラブ以外の人達に協力や援助をいただきながら行っている割合が高い傾向が見て取れる。
- また、老人クラブ以外の人達については、どの活動も同じ傾向があり、活動別の専門的な団体以外は、「自治会・町内会・子供会・婦人会・青年

会・小中学生」などの地域団体、「行政・民生委員・社会福祉協議会・地域包括支援センター・高齢者施設」などの公的機関、そして地域住民などがあげられている。

- クラブ活動を他の人達と行うことは、老人クラブの理解を深めいただく上では、非常に大切なことと思われ、また老人クラブ以外の人達の多くが、老人クラブ活動の協力者になっていただき、意見等を交わすことが、活動のマンネリ化防止や会員の加入促進にも結びつくものとする。
- また、加齢や身体機能の低下に伴い、“参加できる活動”や“楽しい活動”の内容も変化していくと思われる。

特に今回の調査では、会員の高齢化が進んでいる状況を鑑みると、元気高齢者のための活動だけではなく、後期高齢者や虚弱な高齢者でも気軽に参加でき、楽しめる活動メニューを作ることが必要である。

(4) 加入促進運動の取り組みに

- 加入促進運動の取り組みについて、「していない」と回答のあったクラブが約23%となった。取り組みをしなくとも困らないクラブは問題ないと思われるが、会員減少しているクラブについては、意識して取り組まないと手遅れになる恐れがある。

加入促進の特効薬はないが、地道な勧誘活動が基本となる。

(5) 補助金等の申請や報告の書類作成者

- 書類作成者については、会長が約7割。次いで会計担当者が約5割。3番目に事務担当者が約18%となった。
- また、約6割のクラブが、作成者に限らず、一人で書類作成を行っている結果となった。
- 書類の作成の課題は、「会長に負担がかかっていること」「一人で担うクラブが多い」ことが挙げられる。
- 工夫していることの記述を参考に、特定の人だけに負担を強いる方法を見直す必要がある。

(6) 会長の後継者について

- 会長の後継者について、「分からない」が一番多く、約38%となり、次いで、「いる」「いない」がほぼ同じで、おおよそ30%となった。
- クラブ解散の一番の理由が、後継者不足であることから、日頃から後継者養成を意識した取り組みが求められる。

Ⅲ. おわりに ～老人クラブへの期待～

2020年より新型コロナウイルス感染症が日本全国へ広がり、感染拡大防止のための自粛生活を約3年間我々は強いられてきたが、ようやく感染者数も減少傾向となり、普段の社会活動を営むことができるようになってきた。

そのような状況下、秋田県内の老人クラブ数は、以前にもまして急激に減少に転じており、歯止めがかからない状況となっている。今回、秋田県老人クラブ連合会とともに各委員の先生方にもご参画いただき、このような県内の老人クラブの現状を正確に把握するとともに、現場でどのような課題が生じているのかを明確にするために調査委員会を設置、実態調査を行うこととなった。その結果については、本報告書をご参照いただければと思うが、様々な現状や課題が明確となり、極めて重要な調査結果となった。

その中では、会員数の減少や高齢化、会則の無いこと、会長の男性偏重傾向、書類作成のための負担、役員のみならず手不足、クラブ活動の地域差など、さまざまな課題が明らかになった。

その課題を解決するために、委員会では斬新なアイデアを出し合い、特に老人クラブの組織力強化やリーダーシップをとれる人材の確保、多世代が関与しやすい環境づくり、関連組織との連携、デジタル化の推進など、今後老人クラブが行うべき事案が本委員会で明らかとなったと感じている。

歴史的な変遷はあるものの、わが国の高齢化社会における「老人クラブ」の役割はいまだに極めて重要であるにもかかわらず、その認識が住民の方々に薄れてきており、もう待たない状況である。

本調査結果が、次世代の老人クラブが進むべき道筋となり、さらなる老人クラブの発展を切に祈り、本報告書の結びとさせていただきます。

秋田大学高齢者医療先端研究センター長・教授

「単位老人クラブ実態調査」調査委員会

委員長 大田 秀 隆

■「単位老人クラブ実態調査」調査委員会

委員長	大田 秀 隆	秋田大学高齢者医療先端研究センター長・教授
委員	鈴木 博	秋田県社会福祉協議会事務局次長
同	熊谷 善 仁	秋田県健康福祉部長寿社会課主任
同	前川 侖	秋田県老人クラブ連合会副会長（由利本荘市）
同	多賀谷 正和	秋田県老人クラブ連合会理事（大館市）
同	松岡 時 子	秋田県老人クラブ連合会女性委員長（北秋田市）
同	佐藤 勲	秋田県老人クラブ連合会若手委員長（大仙市）